

独立行政法人航空大学の平成 30 事業年度評価結果の主要な反映状況

1. 役員人事への反映について

役員人事への反映	中期目標に定められた業務について、中期計画に沿った年度計画が達成され、国土交通大臣による平成 30 年度の総合評価が「B」評価であったこと等を踏まえ、役員の解任等を行わなかった。
----------	---

2. 法人の運営、予算への反映について

評価項目	平成 30 年度評価における主な指摘事項	令和元年度及び 2 年度の運営、予算への反映状況
国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ・操縦適性検査の検証 WG を設置し、入学試験制度の見直しについて検討しているとのことだが、エアライン等、民間の適性検査についても情報収集・ヒアリングを行ったほうがよい。【教務課（教頭・企画室）】 ・追加訓練が増加傾向にあるが、追加訓練を恒常化させることなく、基本的には規定の訓練時間数に収まるように運用すべきである。【各校実科】 	<ul style="list-style-type: none"> ・エアライン等に情報収集・ヒアリングを実施したところ、専門業者の操縦適性検査を利用しているとのことであり、今後はその有効性を調査していくこととしました。 ・追加訓練を恒常化させることなく、基本的には規定の訓練時間数に収まるよう、その実施について担当教官が単独で判断することなく、首席教官等が管理監督することとしています。引き続き、学生への教育の質の向上、資質の高い学生の確保、訓練環境の維持・向上の取組みを通じて追加訓練を減少させられるよう努めて参ります。

	<ul style="list-style-type: none"> ・民間養成機関に対する技術支援については引き続き積極的に進めてもらうことで、航大の持つ知見を広く航空の世界に還元してもらいたい。【各校実科】 ・裾野拡大の取組は所在地域の周辺に限らず、それ以外の都市でも積極的に実施してもらいたい。【総務課】 	<ul style="list-style-type: none"> ・民間養成機関に対する技術支援については、航大の施設等の経営資源を活用して引き続き積極的に進めて参ります。 ・地域住民への航空思想の普及、啓発を図るための活動を引き続き行いつつ、様々な手法を活用しながら裾野拡大の取組みに努めて参ります。
業務運営の効率化に関する事項	なし	
財務内容の改善に関する事項	なし	
その他の事項	<p>外部からの攻撃に対する情報セキュリティだけではなく、個人が自らの Facebook 等で空港のセキュリティに関わる情報等、外部に流出してはいけない情報を漏らさないよう、職員・学生の教育も重要である。【総務課】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティ対策を含む内部統制の充実・強化に向けた体制整備の推進にあたり、情報漏洩防止の観点も含めコンプライアンス研修を実施し、職員・学生の意識向上を図って参ります。